

大学生の能登地域における民俗行事参加による地域の活性化

学生団体名：学生援農隊あぐり（石川県立大学）

参加学生：澤田美砂・森田孝治・岩崎沙恵子・鈴木春香・連秀馬 その他 14 名

1. 地域活動の概要

能登地域では多くの農村伝統事業が今も継承されています。大学生がこれらの行事へ参加することで、いま地域活性化効果が注目されている「都市農村交流」とグリーンツーリズムについて考察します。また、一時的な参加だけではなく、サークル単位で毎年参加することで、お客様の立場としてだけではなく、地域の一員として祭りや虫送りに参加することを目的とします。参加者には、地域に愛着を持ち伝統行事への継続的な参加者になってもらいたいと思います。

2. 活動の具体的な内容

七尾市中島町で行われる虫送りとお熊甲祭りの参加者を募るため、事前に学内に参加者募集ポスターの掲示や呼びかけをすることで、サークルメンバーのみならず学内に広く応募しました。その結果、サークル外の生徒も含め虫送りには大学生 18 名と社会人 1 名、お熊甲祭りには大学生 7 名が参加者を得ることができました。

実施日	参加人数	内容
6月 11, 12 日	19 名	虫送り
9月 18 日	6 名	小牧白山社祭り, 祭りの準備
9月 19 日	6 名	奉幣の迎え, お熊甲祭りの準備
9月 20 日	7 名	お熊甲祭り

・ 虫送り（6月 11, 12 日）



虫送りの準備



虫送り

6月 11 日に七尾市中島町小牧地区で行われた虫送りに、石川県立大の大学生 18 名、社会人 1 名、計 18 名で参加しました。11 日は小牧到着後、虫送りの準備をするグループと七尾市の里山里海プロジェクトの田植えに参加するグループに分かれて活動しました。虫送りの準備では、虫送りで使用する松明を用意しながら地元の方と虫送りの話や地元のことなど多くの話を聞くことができました。また、田植えに参加したグループは田植えを体験しながら地元の子供たちと交流しました。虫送りが開始される前には、地元の方たちが外雷太鼓を披露してくださりました。その後、虫送りに参加しました。虫送りの

あとは、打ち上げを行い地元の方々と交流を深めました。12日には、小牧壮年団の方たちに釣りを教えていただき、釣った魚の調理など行いました。この活動では七尾市の豊かな自然を体感することが出来ました。

・お熊甲祭り（9月18, 19, 20日）

石川県立大学の大学生7名は神戸大学、星稜大学の学生と共に七尾市中島町小牧地区の一員としてお熊甲祭りに参加しました。9月18日、お祭りの準備と小牧白山社祭りに参加するために、大学生6名で中島町に行きました。準備の時には祭りで使用する「お道具」や「お熊甲祭り」について、地元の方からお話を聞くことが出来ました。小牧白山社祭りでは女性はお道具もちをし、男性は小さい杵旗や神輿を担ぎ小牧の家々を回りました。途中中越・KOB E足湯隊（被災地NGO協力センター、神戸大学）の方々も祭りの行列に参加しました。19日は、お熊甲祭りの準備を行いました。昨日からお祭りに参加している神戸大学の方々とお話をしながら、ワラジの作成やお祭りで使う道具の準備をしました。午後には、杵旗の組み立てをする予定でしたが、台風の接近による悪天候で中止となりました。夜には、小牧白山社に神様を迎えるために「奉幣の迎え」に参加しました。今年は初めてあぐりの女性が先導する猿田彦の前で提灯を持って歩きました。20日のお祭り本番は、台風のため大雨でした。今年のお熊甲祭りは、平日だったのにも関わらず、去年より多くの参加者が集まりました。今年には石川県立大学、神戸大学、星稜大学の40名の学生が参加し、地元の方も合わせ計100名の担ぎ手によって杵旗2台、神輿1台を出すことが出来ました。また、本来は雨のため加茂原での「島田崩し」は中止となっていました。小牧の方々のご好意で「島田崩し」を行うことが出来ました。



お熊甲祭り準備



奉幣の迎え



神戸大学と石川県立大学の学生



島田崩し

3. 今回の地域活動の評価

今回私たちの活動は、テレビや新聞などで紹介されました。新聞では朝日新聞、北國新聞、北陸中日

新聞で紹介されました。7月9日には金沢大学の能登祭り支援プロジェクトに参加し、お祭りの体験談の発表を行いました。このことによって、私たちの活動は県内の方々や他大学の方々に、中島町の魅力や祭りのすばらしさを知ってもらおうきっかけになれたと思います。また、今回の活動ではサークル内だけではなく、前回より多くの石川県立大学の生徒の参加を得られたことから、より広く参加者を募集することが出来たと思います。来年には授業として、石川県立大学の1年生にお熊甲祭りの見学に参加してもらえるよう計画しています。

お熊甲祭りでは、他大学の学生やボランティアの方々、そして地元のかたを合わせて100名の担ぎ手が祭りに参加したことにより、神輿と2本の粋旗を出すことが出来ました。このことは大きな成果だと思います。若者人口の減少によって担ぎ手の確保が難しい近年、私たちの参加が祭りの活性化に繋がるのではと思いました。

今回祭りの参加者たちからは、祭りの参加による地域の方々との一体感がよかったという意見が多数あり、これは継続して祭りに参加するメリットだと考えられます。また、能登の豊かな自然や祭りの舞や太鼓など伝統行事が印象に残ったという意見から、このことも他の地域にPRできる点だと思われま



4. 今後、この活動を維持、活発化していくために必要なもの、及び課題

まず、サークル単位で活動を継続していくために、しっかりした後輩への活動の引継ぎが大切だと思います。また、今回虫送りでは、多くの学生の参加者を募集することが出来ましたが、お熊甲祭りでは

大学が夏休みに入ったことにより、上手く参加者を集めることが出来ませんでした。次はより早い参加者の募集が課題だと感じました。

今回の活動では、複数の大学の学生の参加によって祭りを活性化することが出来ました。このことにより、同じ活動をしている他大学との協力、交流が大きな活動の活性化に繋がると思われます。今回、祭りの時に他の大学の生徒と交流する機会はありませんでしたが、あまりお話することが出来ませんでした。来年は、地元の方々だけではなく、祭りに参加している他の大学の方々との交流も必要だと思います。

5. その他（学生や地域の方からの感想）

虫送りに参加した学生からは、虫送りそれ自体に加え、自然や、海の幸、つりなどの小牧地区の持っている地域資源に感動したという意見も多く、伝統行事の参加のほかにも意義があったように感じました。また、小牧の方との交流も多かったため地域の一体感を感じられたという意見もありました。そして、虫送りに参加した方のほとんどに、この伝統行事を残していきたいという意見がありました。

お熊甲祭りに参加した生徒からは、初めて伝統行事に参加でき、とても興味深かったという意見のほかにも、継続して小牧地区のお祭りに参加しているため、お祭りの時には小牧の伝統の雰囲気や一体感をより感じる事ができたという感想もありました。また、一番多かった意見に、3日間の間小牧の皆さんに大変親切にいただいた。今回お祭りそのものの印象も沢山あったが、それよりも地元の方々の温かさがとても印象に残ったというものがありました。

以上のように参加者の方達からは楽しめたという意見が多数寄せられました。学生等の若者は地域に活力を提供する、地域は地域資源を学生等に提供する。この関係を毎年続けていくことに意義があると思われました。本番一度限りの参加ではなく、準備なども、地域の一員として参加することでお祭りの活性化のお手伝いができるよう努力していきたいと思えます。